

長期戦略:テーマ 「多様性と学力の担保」

提出日 2021年 8月 24日

担当部署

II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	北村入学センター長 (入学センター)	実施計画の 担当部署	入学センター
-----------------------	-----------------------	---------------	--------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
1-(9)-③ 高大連携の充実	2019年度	2021年度	必要⇒【選択型】(学部・研究科が任意で取組みを選択)	不要
<p>内容</p> <p>高等部・中学部や千里国際高等部・中中部は建学の精神を共有し、特長ある一貫教育を実践し、本学の教育の根幹をなしている。それと同時に、安定した大学入学定員確保の根幹でもある。また、同一法人のそれら学校と同様に、継続校である啓明学院、提携校である帝塚山学院、そして現在12にのぼる協定校も本学の教育理念に共鳴し、グローバル教育・キリスト教主義教育を柱として本学を支え、同時に大学入学定員を安定的に支える存在として重要である。これら16高校との更なる高大連携事業の充実を図り、連携強化をするとともに、これら連携校の拡大を図ることで大学入学定員の一層の安定化を図る。</p> <p>1. 協定校等の拡大 協定校は入試委員会が管理・監督を行う。協定校は毎年出身生の成績を中心に更新の検証を行っており、成績報告等大学との関係は概ね良好である。上記にも記しているとおり、本学の安定的学生獲得に貢献していることから、今後も協定校を拡大していく。ただし、現在協定関係にある高等学校との関係から同一地域などの高等学校との協定締結は慎重に行う。</p> <p>2. 高大連携事業の更なる継続・推進（全学部対象として） 現在、高等部・千里国際高等部・啓明学院・帝塚山学院などとは学部選択説明会など高大連携事業は行っているが、提携校や協定校はまだ不十分である。そこで、従来の説明会を単純に増やすのではなく、大学での学びそのものや、高校と大学の学びの関連性などを伝えることにより、多様で高度な学問への関心を高めることに重きを置いた施策も検討し、さまざまな高大連携施策を再構築して体系化する。これらを高校初年次から実施することによって学びへの動機付けを行い多様な学力の向上を図る。</p> <p>3. 理工学部の高大連携による推薦協定等推進 今後、改組が予定されている理工学部であるが、現状での偏差値等評価は低く、学生募集も非常に厳しい状況である。AIなどICT技術をはじめ、今後も理工系学問の必要性は高まりこそすれ、下がることはありえない。また、いわゆる進学校・トップ校の高等学校においては、半数から9割が理工系である状況を考えると、本学のブランド力維持・向上のためにも、理工系学部への安定した入学者数の確保は極めて重要である。そのため、一般選抜入試での学生募集の努力はもちろんであるが、推薦協定校等の充実・拡大による方法も改めて検討の必要がある。そこで、本学の院内校・継続校・協定校である、高等部・千里国際高等部・啓明学院・帝塚山学院などとの密な高大連携プログラム(インターンなども含む)もさらに拡充し、安定した理工系進学者の確保を行う。さらに、協定校などとの高大連携プログラムもさらに拡充し、協定校推薦による入学者数の増加も図る。</p>				

進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式
指標1	協定校等の拡大 重点地域を定めた 志向的な広報・広告効果の検証学 力3要素を評価する入試の導入	拡大数
指標2	高大連携事業の数	院内・継続校・提携校・協定校を合わせた連携事業(※)の実施数 連携事業とは、単純な説明会だけでなく、高校と大学の学びの関連性を伝える、多様で高度な学問への関心 を高める施策。
指標3	院内・継続校・提携校・協定校から の本学理工学部への進学者数	院内・継続校・提携校・協定校(現在 16 高校)から本学理工学部への入学者の合計数

目標1<指標1>連携校、協定校の拡大

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
目標	協定校1校	協定校1校	協定校1校	
実績	系属校 賢明学院 (2019.7.18)	協定校 近江兄弟社 (2020.4.1)		
	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
目標				
実績				

目標2<指標2>高大連携事業の更なる継続・推進

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
目標	協定校との学部説明会等実施	協定校との学部説明会等実施	協定校との学部説明会等実施	
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部・啓明学院・帝塚山学院 3年生対象学部選択説明会 ・院内継続校提携校協定校 2年生対象学部選択説明会(秋オープンキャンパス同時開催) ・千里国際理工学部 模擬授業 ・アサンプション国際来校(模擬授業) ・梅光学院 論文指導 ・賢明学院 KGSSC 委員会設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部 3年生夏オープンキャンパス(WEB)参加 ・高等部・千里国際・啓明学院・帝塚山学院・協定校 2年生・3年生秋オープンキャンパス(WEB)参加 ・高等部 3年生学部選択説明会開催 ・啓明学院 3年生 国際学部ダブルディグリー制度説明会参加 ・啓明学院 教員対象 学長講演 ・梅光学院 論文指導 ・賢明学院 KGSSC 委員会 		
	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
目標				
実績				

目標3<指標3>理工学部の高大連携による推薦協定等推進

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
目標	高等部・千里国際・啓明学院・帝塚山学院と理工学部との懇談等の実施 連携校・推薦協定校等対象の高大連携プログラムの検討	院内校・連携校・協定校(現在 16 高校)から本学理工学部への入学者	院内校・連携校・協定校(現在 17 高校 = 近江兄弟追加)から本学理工学部への入学者	院内校・連携校・協定校(現在 18 高校 = 賢明追加)から本学理工学部への入学者
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・千里国際 1 年生 KSC 授業見学 ・帝塚山学院三田キャンパス見学 ・秋オープンキャンパス KSC 参加 ・啓明学院三田キャンパス見学 	<ul style="list-style-type: none"> ・千里国際・啓明学院・賢明学院 SCI-TECH RESEARCH FORUM(WEB)参加 ・千里国際 三田キャンパス研究室訪問 ・高等部 1 年生 理系選択説明会 ・啓明学院 1 年生2年生理系進路説明会 		
	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
目標				
実績				

2. ロードマップ

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
連携校、協定校の 拡大	策定段階	北陸学院・九州学院・東北学院・新島学園などを視野に情報収集	協定校として1校追加	協定校として1校追加		
	2022年3月末段階	—	—	—		
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階 2022年3月末段階					
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
高大連携事業の 更なる継続・推進	策定段階	これまでの全体会・出身生との懇談会の他に、「進路・入学担当者会議」を設置。 また、大学説明・模擬講義の実施の充実を図る。	「進路・入学担当者会議」において、高校の進路指導担当者や入学センター(あるいは入学学部の担当者)が課題や生徒の教育内容・方法について意見交換。	連携事業の実施		
	2022年3月末段階	—	—	—		
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階 2022年3月末段階					
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
理工学部の高大 連携による推薦協 定等推進	策定段階	高等部・千里国際・啓明学院・帝塚山学院と理工学部との懇談等の実施 推薦協定校等対象の高大連携プログラムの検討	協定校高大連携プログラムの提案	協定校高大連携プログラムの実施		
	2022年3月末段階	—	—	—		
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階 2022年3月末段階					

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】

非公開

経費 単位:万円

2019年度 承認

2020年度 承認

2021年度 承認

2022年度 承認

2023年度

2024年度

左記以降

非公開

人員・人件費 単位:万円

2019年度 承認

2020年度 承認

2021年度 承認

2022年度 承認

2023年度

2024年度

左記以降

非公開

4. 進捗状況・得られた成果

2019 年度	院内・継続校・提携校・協定校において学部の学びの知識を増やし、大学で学ぶ意欲増大に繋がった。 学部でどのようなことが学べるのか理解度が増したことで、より具体的な志望理由のもとに学部選択ができた。
2020 年度	入学から志願者増への方針転換とコロナ禍の影響により、必要最低限の対応となった。
2021 年度	
2022 年度	
2023 年度	
2024 年度	

5. 今後の課題及び方向性

2019 年度	新たな協定校について模索していく。 KSC 再編に伴い、院内・継続・提携・協定校からの KSC に設置されている学部への進学者数を増加させていく。
2020 年度	推薦入学者の成績について高等学校と共有し、成績向上をはかる。
2021 年度	本帳票は 2021 年度で廃止し、2022 年度以降は通常業務にて学部選択説明会などを継続して実施する。
2022 年度	
2023 年度	
2024 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2018年度	—
2019年度	—
2020年度	—
2021年度	—
2022年度	
2023年度	

7. Total Review の結果

【フェーズⅠ(2019～2021)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズⅡに向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
・SSH や SGH など高大連携活動を拡大してきたが、連携活動は維持に留める方向に転換した。	継続 ・ <input type="checkbox"/> 廃止	・同左

【フェーズⅡ(2022～2024)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズⅡに向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	